

黄帝曰

寒の疾患	因於寒、欲如運枢(家の中にこもる)。 起居如驚(起居が妄動すると)、神氣乃浮(陽氣が浮く)。
暑の疾患	因於暑汗(汗が出る)、煩(煩躁時には)則喘喝(呼吸困難)、 静(邪が内攻すると)則多言(多言多語)、体若燔炭(炭火のように熱い)。 汗出(汗を出せば)而散(熱が下がる)。
湿の疾患	因於湿、首(頭部)如裹(重く腫れぼったい)。 湿熱不攘(消し除く)、大筋綆短(縮み短くなる)、小筋弛長(緩んで長くなる)。 綆短為拘(伸ばせない)、弛長為痿(痿弱となる)。
気の疾患	因於氣為腫(氣が虚して腫病になると)、四維相代(四肢交互に浮腫)、陽氣乃竭(尽きる)。
煎厥(病名)	陽氣者、煩勞(心勞)則張精絶(緊張で陰精を衰耗)。 辟積(度重なる)於夏、使人煎厥。 目盲(めしいて)不可以視、耳閉(とじて)不可以聽。 陽氣が亢盛して陰精を消耗することによって氣逆昏厥が起こる病証。
薄厥(病名)	陽氣者、大怒則形氣絶(氣血の隔絶)、而血菀(鬱結する)於上(上部に)、使人薄厥。 激怒することによって氣血が心胸部或は頭部に上逆して昏厥が起こる病証
偏枯(病名)	汗出偏沮(汗が半身に偏って出ると)、使人偏枯(片側麻痺)。
痤癩(病名)	汗出見湿(汗が出たときに湿邪にあえば)、乃生痤癩(小癩と汗疹)。
皴、瘃(病名)	勞汗(労働後の汗)当風(風に当たる)、寒薄(皮膚に迫る)為皴(にきび)、鬱(鬱積すると)乃瘃(瘡癩、できもの)。
大偻(病名)	開闔(毛穴の開閉)不得、寒氣從之、乃生大偻(身体がうつむき曲がる)。
癩(病名)	陷脈(寒氣が血脈入ると)為癩(漏瘡)。
驚駭(病名)	留連(寒氣が留まると)肉腠(筋肉の間)、兪氣(経穴)化薄(侵入する)。 伝(臟腑に迫る)為善(善く)畏(恐懼、恐れる)、及為驚駭(驚愕の症状)。
癰腫(病名)	營氣不從(経脈に従えず)、逆於肉理(筋肉中に逆流して)、乃生癰腫(急性化膿性疾患)。
風瘧(病名)	魄汗未盡(汗が出尽くさないうちに)、形弱而氣燄(疲労していれば)、穴兪(経穴)以閉、 發為風瘧(風邪による悪寒発熱)。

綆:収縮

痿弱:運動麻痺

竭:尽きる

漏瘡:瘻孔を有する化膿性病変

瘧:煩燥、頭痛、自汗、発熱後冷え

陰陽の要	凡陰陽之要、陽密乃固(内では密、外では固く護る)。 故陽強不能密、陰氣乃絶(消耗、衰竭)。 陰平陽秘(陰氣が和平、陽氣が緻密)、精神乃治(正常)。 陰陽離決、精氣乃絶(竭絶)。
風邪の症状	風客淫氣(風邪が氣に侵入すると)、精乃亡(消耗する)、邪傷肝也。 因而飽食(因りて飽食すれば)、筋脈横解(損傷される)、腸澼(下痢して)為痔。 因而大飲、則氣逆(氣を上逆)。 因而強力(体力の限度を超えると)、腎氣乃(すなわち)傷、高骨(腰の大骨)乃壞。
風邪による四季の症状	因於露風(霧露や風邪)、乃生寒熱(寒熱の症状が出る)。 春傷於風(風に傷つけられると)、邪氣留連(留まる)、乃為洞泄(下痢)。 夏傷於暑、秋為痲瘧(悪寒発熱)。 秋傷於湿、上逆而咳、発為痿厥(四肢の筋脈無力)。 冬傷於寒、春必温病(温熱病、太陽病)。 四時之氣、更傷五藏。
五味	陰之所生(陰精が生ずる)、本在五味(源は飲食の五味にあり)。 陰之五宮(五藏)、傷在五味(五味で傷つく)。
酸が過ぎると	味過於酸、肝氣以津(溢れる)、脾氣乃絶(木が土にうち克って脾氣が絶する)。
鹹が過ぎると	味過於鹹、大骨氣(腰骨の氣)勞(損なわれ)、短肌(肌肉萎縮)、心氣抑(心氣抑鬱)。
甘が過ぎると	味過於甘、心氣喘滿(煩悶し安定せず)、色黒(顔黒ずみ)、腎氣不衡(平衡とれず)。
苦が過ぎると	味過於苦、脾氣不濡(潤沢でなく、消化不良)、胃氣乃厚(脹満)。
辛が過ぎると	味過於辛、筋脈沮(敗壞)弛(ゆるむ)、精神乃央(殃:傷つく)。
天与の寿命を全うするには	謹和五味(五味を調和すれば)、骨正(ゆがまず)筋柔(柔軟で)、氣血以流(流通し)、腠理以密(緻密)。 如是則骨氣以精(剛強、精粹となる)。 謹道(道を慎むこと)如法(養生の法)、長有天命(長く天与の寿命をたもつ)。

竭:尽きる

痲瘧:かいぎやく, 悪寒発熱, マラリア

痿:湿氣が外に向かって筋脈に散ると痿弱となる

厥:逆氣

有:有つ(たもつ)